

2020年の演奏会中止 練習再開は9月

東北大学男声OB合唱団Chor青葉 世話人会代表 岩井純一



4月7日夜、Chor青葉の団員に向け概略、次のメッセージを送りました。

新型コロナウイルス感染拡大の勢いが収まらず、すでに皆様は「緊急事態」に即した日常を送っておられることと存じます。本日、新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言が7都府県に出されました。宣言後、首都圏では東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の知事が住民の外出自粛などの措置をとります。宣言期間は5月6日までとなっています。幹事団はこの事態をあらためて真摯に受け止めました。今後の状況を厳しく推察して、以降の活動を取り決めました。緊急事態宣言の期間は1カ月程度ですが、十分な安全を見極めるために5月6日以降も状況をしっかりウオッチしなければなりません。合唱はいわゆる3密(密閉、密集、密接)に陥る局面が多い活動なのでより慎重に構えて参ります。どうぞ今後の活動について理解されますようお願いいたします。皆様のご協力でこの難局を乗り切って参りましょう!

そして呼びかけました。

●まず「いのち」を守りましょう!

●次に「はじまりのとき」に備えましょう!

自分自身および家族など周りの方の「いのち」を守ることは健康であることがまず基本です。健康が保証された上で、次への活動に備えていきましょう。「はじまりのとき」は今年の演奏会テーマでした。その上で今後の活動骨子を伝えました。

●2020演奏会を中止します。●2021演奏会で2020演奏会のステージ曲を全曲演奏します。●当面練習を中止、練習再開の目途は2020年9月とします。指揮者、ピアニスト、ボイトレの先生方から、この趣旨にご賛同いただき、温かい激励の言葉をいただきました。現状ではいつ練習を再開できるか、本当に不透明です。今後は練習休止中の団員のモチベーションをどうやって保っていくのかが大きな課題＝一人一人の課題だと考えております。

4月12日Chor青葉の公開ホームページに次のメッセージを掲載いたしました。

<メッセージ> (<https://chor-aoba.net>)

わたしたちは東北大学男声合唱団OBを中心に、男声・女声を合わせ約80人のメンバーで毎年、定期的に公演活動をしている合唱団です。練習は2週間に1回ノ

ですが、公演間近には毎週1回となります。練習会場は新宿・大久保のクラシック・スペースを軸に、公営施設を幅広く利用しています。東北大学男声OB合唱団Chor青葉の生い立ちや演奏会活動についてはプロフィール画面をご覧ください。

2019年7月14日、Chor青葉は「東京演奏会2019」を無事に終えました。出演者は77名。2018年7月29日に続き紀尾井ホールでの2回目の演奏会でした。テーマは「記憶の風景」。演奏曲はミュージックアドバイザーの樋本英一指揮による無伴奏男声合唱「沖繩小景」、混声合唱「白いうた青いうた」、混声合唱「出発の歌」ならびに団内指揮者の嵯峨秀夫による無伴奏男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」。いずれも演奏会のテーマにふさわしい内容でした。

アンコールでは樋本英一の指揮・指導で「戦争を知らない子供たち」の3番歌詞のフレーズと「ふるさと」を会場の皆様と一緒に歌い、合同合唱がホールに心地よく温かく響き渡りました。フィナーレは定番となった「虹につづく道」を嵯峨秀夫の指揮で全員合唱。会場の皆様と気持ちが通った合唱に団員一同も深い感動をいただきました。

今年は「東京演奏会2020」として7月19日紀尾井ホールで開催する予定で、昨年9月から練習を重ねて参りました。しかし2月以降、新型コロナウイルス感染拡大の勢いが収まらず、しばしば練習中断に追い込まれました。4月8日新型コロナウイルス対応の「緊急事態宣言」が出され、今後の事態の推移を重くとらえて、7月19日の演奏会を取り止め来年2021年7月17日に延期し「東京演奏会2020+」を開催することにいたしました。楽しみにされていた皆様にはまことに申し訳ございませんが、一年後の演奏会のご来場をお待ちしております。

「東京演奏会2020+」は男声、混声とも各2ステージで、テーマは「はじまりのとき」。演奏曲は樋本英一指揮による男声合唱「岬の墓」、混声合唱「水のいのち」、混声合唱「唱歌の四季」ならびに嵯峨秀夫指揮による無伴奏男声合唱組曲「心に翼を」。合唱界でも有名な曲が多いこと、2004年東北大学男声OB合唱団が東京で「心に翼を」を初演したこと、2005年Chor青葉の第1回演奏会で「水のいのち」を歌ったことなどから、わたしたちの合唱活動の「基点」「起点」という意味合いを込めて歌います。

コール青葉の約束ごと「思いやりのある仲間と醸し出される雰囲気と大事に、豊かなハーモニーと高い音楽性を追求し、心に訴える音楽を創造する」を忘れずに練習に励んで参ります。「声を合わせ、歌を合わせ、心を合わせて」を心に刻んで。